

1 つぎの お話を よんで もんだいに こたえましょう。

夏になると、まちのようすはすこしずつかわってきます。

あさ、学校へ行くみちで、あさがおの花を見かけることがあります。

あさがおは、夏のあさにさく花で、あおやむらさきの色が に見えます。つるがのびて、

さくのまわりからまっすぐにようすを見ると、夏が来たことを感じます。

昼になると、空に大きな入道雲がうかぶことがあります。

入道雲は、夏によく見られるくもで、もくもくと高くのびるのがとくちょうです。このくもが出てくると、天気が変わりやすくなり、あつい空気がたまっているしるしでもあります。ときどき、急に夕立がふって、じめんや木のはをつめたくぬらすこともあります。

また、夏になると、木の近くからせみのこえが聞こえてきます。

せみのこえは、朝から夕方までつづくこともあり、夏がいちばんさかんなきせつだとなつたえてくれます。

家のえんがわやまごのそばでは、風鈴の音がなることもあり、そのすずしい音をきくと、少しだけあつさをわすれられます。

このように、あさがおやせみ、入道雲、夕立、風鈴などは、夏を思い出させることばです。

これらを夏の季語とい
い、文や俳句の中で、季節のようすをわかりやすくつたえるためにつかわれています。季語をつかうと、読んだ人にそのきせつのけしきや音、空気までそうぞうしてもらうことができるのです。



(1) 文中にある に当てはまる言葉として、正しいものを選び番号をまるでかこみましよう。

- ① すずしそう
- ② まぶしそう
- ③ 暑そう

(2) 「入道雲」は、文の中で、どんなくもだとせつめいされていますか。文の内容をもとに書きましよう。



(3) つぎの文の () に入ることばを、文章の中からえらんで書きましよう。

「文の中でしゅつかいされている夏の季語は、あさがお、せみ、
(①) と夕立、(②) です。」

- ① ()
- ② ()

(4) なぜ、文や俳句で季語をつかうのですか。文の内容をもとに書きましよう。



1 つぎのお話を よんで もんだいに こたえましょう。

夏になると、まちのようすはすこしずつかわってきます。

あさ、学校へ行くみちで、あさがおの花を見かけることがあります。

あさがおは、夏のあさにさく花で、あおやむらさきの色が に見えます。つるがのびて、

さくのまわりからまっすぐにようすを見ると、夏が来たことを感じます。

昼になると、空に大きな入道雲がうかぶことがあります。

入道雲は、夏によく見られるくもで、もくもくと高くのびるのがとくちょうです。このくもが出てくると、天気が変わりやすくなり、あつい空気がたまっているしるしでもあります。ときどき、急に夕立がふって、じめんや木のはをつめたくぬらすこともあります。

また、夏になると、木の近くからせみのこえが聞こえてきます。

せみのこえは、朝から夕方までつづくこともあり、夏がいちばんさかんなきせつだとなつたえてくれます。

家のえんがわやまごのそばでは、風鈴の音がなることもあり、そのすずしい音をきくと、少しだけあつさをわすれられます。

このように、あさがおやせみ、入道雲、夕立、風鈴などは、夏を思い出させることばです。

これらを夏の季語とい
い、文や俳句の中で、季節のようすをわかりやすくつたえるためにつかわれています。季語をつかうと、読んだ人にそのきせつのけしきや音、空気までそうぞうしてもらうことができます。



(1) 文中にある に当てはまる言葉として、正しいものを選び番号をまるでかこみましよう。

- ① すずしそう
- ② まぶしそう
- ③ 暑そう

(2) 「入道雲」は、文の中で、どんなくもだとせつめいされていますか。文の内容をもとに書きましよう。

解答例) 夏によく見られ、もくもくと高くのびるくも。

(3) つぎの文の () に入ることばを、文章の中からえらんで書きましよう。

「文の中でしゅつかいされている夏の季語は、あさがお、せみ、
(①) と夕立、(②) です。」

- ① () 入道雲
- ② () 風鈴

(4) なぜ、文や俳句で季語をつかうのですか。文の内容をもとに書きましよう。

解答例) 季節のようすをわかりやすくつたえ、読んだ人にそのきせつを思い浮かべてもらつたため。